

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：32616

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23402038

研究課題名(和文) 日系企業のBOP戦略とビジネス生態系モデルに関する研究

研究課題名(英文) Research on BOP Strategies of Japanese Companies and Business eco-systems

研究代表者

林 倬史 (HAYASHI, Takabumi)

国土館大学・経営学部・教授

研究者番号：50156444

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,000,000円、(間接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、フィリピン最大のマイクロファイナンス事業を行っているNGO組織(CARD MRI)の「貧困女性」への小口金融戦略とMicroビジネスの育成戦略を調査することによって、日系企業とフィリピン同NGOとの協働によって、現地の「自律的ビジネス生態系」を基盤としたビジネスモデルの理論的基盤の構築と具体的提起を目指してきた。

そして本研究の成果は、フィリピン固有の財閥型ファミリービジネスと多国籍企業との協働による主要産業支配の構図の下で、CARDが貧困層へのマイクロファイナンスの提供とビジネスサポートによって、自律的ビジネス生態系をどのように構築しようとしてきたかを明らかにした点にある。

研究成果の概要(英文)：The BOP strategies of Multinational Enterprises (MNEs) are not directly linked to one of the biggest social issues facing newly emerging countries, reducing poverty. Conventional competitive strategies are ineffective in solving BOP social issues in such countries. The research result shows that micro-finance by local NGOs can create a foundation for employment in local communities, discouraging rural inhabitants from migrating to the informal sector in urban areas, and helping create a foundation for local autonomous and sustainable business ecosystems. The result also looks at a Japanese venture company mediating between the social issues of local NGOs, and the knowledge owned by foreign companies.

研究分野：社会科学B

科研費の分科・細目：経営学

キーワード：BOP ビジネス生態系 NGO 多国籍企業 サリサリストア 日系企業

1. 研究開始当初の背景

本研究プロジェクトのメンバーは、国際経営戦略論と知識創造のメカニズムを中心に研究してきた。特にここ数年、中心的メンバーは「多国籍企業の BOP (Base/Bottom of the Pyramid) 戦略と製品開発における現地子会社や現地研究機関の役割」を「現地の知恵や知識の創造」の視点から検証してきた (Hayashi:2007, Iguchi and Hayashi:2009, Hayashi and Nakayama:2009)。これらの研究において BOP の視点から参考にしてきた中心的理論は、C.K.Prahalad(2002)、G.Lodge(2002)、G.Lodge and C.Wilson(2006)、A.Hammond and C.K.Prahalad(2004)、S.Jain and V.Sishil(2006)、S.Hart(2007)等にあった。しかし、これらの諸研究は確かに重要な問題提起を含んで入るが、当然のことながらネスレ、シェル、P&G 等の欧米系多国籍企業をモデルにしたものであり、日系企業のものづくり能力を活かした形での現地企業や NGO との協働のシステム造りに対しては必ずしも適的な理論とは言えなかった。そこで、今回のプロジェクトメンバーは、日系企業によるソーシャル・ビジネス型 BOP 戦略モデルを、フィリピンでの事例を軸に、日系企業固有のビジネス生態系モデルとして理論的構築を計ることになった。

2. 研究の目的

多国籍企業が事業活動をグローバルな規模で展開する中で、新興経済圏の市場開発と貧困解消とをどのように解決していくのか、その理論的解明と実践的モデル化を追及する。その中心的中身は、「現地コミュニティの知識・知恵を踏まえた国際的ソーシャル・ビジネス」型の「日系企業を軸とした独自の国際的ビジネス生態系モデル」の提起を目指したものである。

3. 研究の方法

企業本社から得られた本社レベルでの「国連の提起する Global Compact (行動指針) と BOP 戦略と NGO(PBSP)との位置づけ」をそれぞれ総括する。特に、外資系企業、現地企業と現地 NGO がどのように「民衆の知恵」、「ローカルコミュニティ」、「貧困層」を取り込んだ「貧困解決プログラム」の仕組みを構築しているかを中心に総括していく。具体的には、(1)各チーム合同で、PBSP が外資系企業、現地企業、現地コミュニティとの協働で行っている「自律的貧困解決プログラム」を中心に、全体的総括を進めていく。

(2) アンケート分析チーム(中山・荒井)と日本側調査チームは、共分散構造分析とテキスト・マイニングの手法を中心に用いて、「貧困解消型ビジネス生態系モデル」を構成する主要変数間の相関を明示した形で可視化する。

(3) 日本側調査チームは、再度 PBSP 協賛加盟日系企業に訪問調査し、これまで分析した結果を報告し、さらなる改善プログラムを共同で検討する。日系企業独自のビジネス生態系モデルの理論化の精緻化を計る。

4. 研究成果

フィリピン最大のマイクロファイナンス事業を行っている NGO 組織の CSRD MRI に協力してもらい、同 NGO の小口金融顧客層、特にサリサリストアへのインタビュー調査を通して、現地での貧困層の起業化が自律的・持続的ビジネス生態系を構築し、貧困層の経済的自立化を促進してきた実態を明らかにすることができた。そして現地のビジネス生態系のなかで日系企業の技術的サポートが有効に機能することも確認できた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計 22 件)

1. C.Iguchi, T.Hayashi and A.Nakayama(2014), "Effects of Diversified and Geographically Dispersed Innovation System on the Knowledge Creation mechanisms of MNEs", in C.G.Alvsram, H. Dolles, and P. Strom (eds), *Asian Inward and Outward FDI: New Challenges in the Global Economy*, Basingstoke, Palgrave, pp.65-86. 査読有。

2. 林 倬史「多国籍企業の BOP 戦略とソーシャル・ビジネスの分析視角」大石・桑名・田端・安室監修、多国籍企業学会著『多国籍企業と新興国市場』第 16 章、文眞堂、2012 年、302-323. 査読無

3. Iguchi, C. (2012), "Globalisation of R&D by TNC subsidiaries: the case of South East

Asian Countries" *Asian Business and Management*, Vol. 11, No.1, 79-100. 査読有

4. 関智一 「グローバル R&D 研究の現況と新展開 - 多国籍企業 17 社の R&D 投資先分布の検証を通じて」『多国籍企業研究』第 4 号、2011 年 6 月、63-80 (査読有)

5. Arai, Masashi and Uchida, Yasuro (2012) "Pitfall of the International Standardization Process: The Consensus-based Standard in the Japanese Manufacturing Industry", *International Journal of Business Research*, Vol.12, Number 2, IABE, June 2012, ISSN:1555-1296, 23-43 (査読有)

6. Nakayama, A. (2013). Analysis of Conditional and Marginal Association in One-Mode Three-Way Proximity Data. In W. Gaul, A. Geyer-Schulz, Y. Baba, & A. Okada (Eds.), *German-Japanese Interchange of Data Analysis Results*, Springer, 135-146. (査読有)

{ 学会発表 } (計 12 件)

1. Hayashi, T., Nakayama, A. and Iguchi, C. (2013), "Strategic Knowledge Creation and the Management of Diversities - Comparative Analysis of Kao Corporation and P&G", presented at AJBS (The Association of Japanese Business Studies), Istanbul, Turkey (3 July 2013).

2. Iguchi, C. (2013), "Roles of offshored R&D by Japanese MNEs: Comparative Studies of Asian and European Countries", presented at International Workshop on East Asian Investments in Europe at White Rose East Asia Centre, University of Leeds, 24-25 September 2013.

3. Hayashi, T. (2013), "BOP Strategies of MNEs and Their Influences on the Business-ecosystems in the Emerging Countries from the perspective of the Social Innovation in the case of the Philippines", *Networking and Innovation at IKU Innovation Centre*, Budapest, 26 November 2013.

4. Iguchi, C. (2012), "The Innovation System of Culture-Specific MNEs: the Effects of Diversified and Geographically Dispersed Knowledge Sourcing Mechanism" presented at AIB (the Academy of International Business), Washington D.C. USA (2 July 2012).

5. Takahashi, T. (2012), "The Effects of Knowledge Transfer Activities of Regional HQs on the Absorptive Capacity of Foreign Subsidiary within MNC", *International Academy of Business and Economics*, June 9, Ca' Foscari University of Venice, Venice, Italy.

6. Hayashi, T. (2011) "The Knowledge Creation of MNEs: the Effects of Diversified and Geographically Dispersed Innovation System" *European International Business Academy (EIBA) 37th Conference*, Bucharest, Romania, 8-10 December 2011.

{ 図書 } (計 0 件)

{ 産業財産権 }
出願状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

取得状況(計 0 件)

研究者番号:

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林 倬史 (Hayashi, Takabumi)
国土館大学経営学部・教授
研究者番号: 50156444

(2) 研究分担者

井口 知栄 (Iguchi, Chie)
慶応義塾大学商学部・准教授
研究者番号: 20411209

(3) 研究分担者

荒井 将志 (Arai, Masashi)
杏林大学総合政策学部・講師
研究者番号: 70549691

(4) 研究分担者

関 智一 (Seki, Tomokazu)
立教大学経済学部・准教授
研究者番号: 50301966

(5) 研究分担者

金網 基之 (Kanatsuna, Motoyuki)
長崎県立大学経済学部・教授
研究者番号: 50298064

(6) 研究分担者

高橋 俊一 (Takahashi, Toshikazu)
立正大学経済学部・講師
研究者番号: 00547896

(7) 研究分担者

中山 厚穂 (Nakayama, Atsuho)
首都大学東京社会学研究科・准教授
研究者番号: 60434198

(8) 研究分担者

伊藤 道雄 (Ito, Michio)
立教大学社会学部・教授
研究者番号: 90386459

(3) 連携研究者

()